様式第6号の7

学番	58	県立塩沢商工高等学校

令和8年度　学校自己評価表（計画）

学校運営計画	
学校運営方針 （スクール・ミッション）	【地域と連携しながら専門分野の学びを深め、将来の地域を支える人材を育成】 〇 地域唯一の専門高校として、工業・商業に関する基本的な能力を習得させ、地域における課題を発見し、解決に向かう力を育成する。 〇 地域社会と連携した体験的な活動をとおして、望ましい職業観や勤労観を身に付けさせ、将来の地域を支え、発展に貢献できる人材を育成する。
三つの方針（スクール・ポリシー）	
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	① Employability（社会で必要とされる能力）の向上を目指し、将来の目的意識を明確にする力を育成します。 ② 確かな学力（基礎的・基本的な学力）や技術を身に付けさせるとともに、将来のスペシャリストとして、地域産業を担う人間性豊かな職業人を育成します。 ③ 地域社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて行動する力を育成するとともに、地域との交流や協働を通して、地域の発展に寄与することができる人材を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	① 確かな専門性に裏付けされた知識や技術を身に付け、地域における課題等を発見させるために、地域社会や企業との連携による実践的・体験的な学習を充実させます。 ② 地域の課題解決の糸口となる専門科目を目的意識を持って取り組むとともに、資格取得や競技大会等に積極的にチャレンジすることで主体的に学ぶ態度を育成します。 ③ 地域のイベントや社会貢献活動に参加することで地域との交流を深め、地域への貢献意識や地域愛を醸成します。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	① 将来のスペシャリストとして、地域社会で活躍できる職業人を目指し、隊かな専門性を身に付けようという目的を持った生徒 ② 他者との対話を大切にし、自他の個性や多様性を認め、協働して物事に取り組める生徒 ③ 自己管理能力や規範意識を持ち、チームワークを大切にし、人とのつながりを育むことができる生徒

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
【成果】 〇地域と連携した多くの活動があった。 ・体育祭で金城幼稚園が参加、幼児レースを実施 ・夏季休業中に社会人及び小学生のプログラミング教室を開催 ・丘陵祭で地元企業、大学、地域と連携、約700人の来校者 ・商業科で「ゆきぐにランタン」に参加、「塩沢紬ランウェイ」（金城幼稚園、国際大学参加）の企画運営 ・1、2年生の現場見学、企業見学の実施、2年生がﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟを実施、南魚沼建設業協会との連携授業の実施 〇生徒の多方面での活躍があった。 ・ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ部が高校総体女子個人4位入賞、陸上部が北信越大会ﾊﾝﾏｰ投げ女子4位入賞、野球部が野球学会で発表、技術研究部がﾏｲｺﾝｶｰﾗﾘｰ北信越大会出場。 【課題】 ①生徒指導では、支援が必要な生徒のトラブルが多く、対応するために職員研修を行う。校則の見直しについて、教員、生徒、保護者からアンケートを行い、検討していく。 ②教科指導で、生徒の基礎学力の定着・向上が必要。遠隔授業の実施や、より一層、ICT（タブレット）等を駆使した「分かる授業」を工夫していく。 ③進路指導では、早期から意識啓発をするために年間を通して計画的に出前授業を実施し、実践していく。 ④学校の取組状況を、HP、note、インスタや各メディアとの連携しながら、積極的に情報発信していく。 ⑤生徒理解のための研修を積極的に勧め、学習面・生活面での支援を継続していく。	1　規範意識や基本的生活習慣の確立、豊かな人間性の育成	〇 規範意識（挨拶の励行、頭髪・服装、欠席・遅刻・早退、社会的マナー）を高めるために、職員全員体制で生徒の生活指導に取り組む。 〇 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動への積極的な取り組みを促す。
	2　自ら学ぶ力、自ら考える力、基礎学力の向上	〇 基礎学力の定着・向上のため、全ての教科でICT等を活用し、自宅学習、朝学習、課題・補習等をより効果的に実施 〇 必要に応じて「学び直し」の機会を設ける。 〇 教科横断的に 「書く力」「まとめる力」「発表する力」を育成する。 〇 専門教科について、基礎・基本的な知識・技術を身に付けさせ、将来のスペシャリストを育成するとともに、資格取得、競技大会、研究発表大会等に積極的に出場するなど、チャレンジ精神を育成する。
	3　一人一人の着実なキャリア形成、進路実現	〇 学校生活全般を通し、将来の目的意識を明確にする力を育成する。 〇 地域をしり、地域の活性化に貢献できる人材の育成 〇 統合型推薦を利用した、4年制大学等への合格に向けて支援する。
	4　地域との連携、開かれた学校づくり	〇 商業科、地域創造工学科で学んだ成果を地域に向けてアピールし、地域イベント等との連携、交流を図り、地域の活性化に寄与する。 〇 外部人材による講演会、実技講習会を実施し、地域課題に関心を持ち、その解決に向けて行動する力、主体的に学ぶ態度を育成する。 〇 ホームページ・SNS等による保護者や地域への情報発信を行い、開かれた学校づくりに努める。
	5　支援を必要とする生徒への理解と支援	〇 職員間で情報共有、迅速で組織的な対応、保護者・外部機関（病院、児相、警察等）と連携する。 〇 特別支援・適応支援教育に対する研修を積極的に行い、理解と実践力を養う。（SCとも連携）

		総合評価
成果		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
教務部	授業時数の確保し、学びの保証をする。	実施すべき授業時数（教科29単位×35週、LHR35単位）以上を確保する年間授業計画を作成する。また、突発的な事象が発生した際には時数確保のための方策を講ずる。			
		部活動の各種大会やその他による出張の際に、授業変更などをして自習時間を極力出さないように喚起し、実質的な授業時数を確保する。			
		担当教科を越えた相互授業参観を積極的に実施する。			
		遠隔授業の開始に伴い、授業日の確保・調整を行う。			
		冬季の感染症や大雪による臨時休校等に対応して、リモート授業を適切に行う。			
	適正な観点別評価を行う。	成績規定に基づき、ペーパーテストによる成績評価に偏らない観点別評価を適正に行えるよう成績会議を開催、指導と評価の一体化の実現できるよう努める。			
	学校PRを強化する。	授業参観を計画し、保護者との連携を強めるとともに、学校の取り組みに対してを保護者から理解と協力を得る。			
		中学生体験入学をより充実したものにし、入学希望者の増加を図る。			
	PTA関係事業を行う。	PTA総会や役員会、PTA委員会活動を通じて、PTA会員間の交流を深め、情報提供や情報交換に役立てる。			
（保健）	生徒が健康で、安全･安心に学校生活が送れるよう支援する。	日々の健康観察、定期健康診断、健康相談を実施し、速やかに事後処置を行う。			
		保健講話の実施、保健だよりを通して、身近な健康問題について考えさせる。			
	緊急時に組織的・迅速に対応できる体制を整える。	AED講習会等の講習会を実施し、救急処置を迅速・的確にできるようにする。			
		防災訓練を実施し、災害時において安全かつ迅速に避難できる方法を身に付けさせる。			
	清掃により、学習環境の整備に努める。	清掃区域を決定し、清掃用具を整備・配置し、月例大清掃を行い校内外の美化に努める。			
生徒指導部	家庭や地域の関係諸機関と連携を深め、地域と教職員が共通理解のもと生徒指導を行う。	PTA活動や面談などを通じ、生徒指導方針の共通理解を得ながら、保護者との連携を図る。			
		警察や教育相談機関、地域の関係者との連携を図り、必要に応じて情報交換を行う。			
		保健室や適応支援委員会と連携し、教職員の共通理解のもと、指導を行う。			
		特別な指導が必要な生徒に対して、組織的に継続的な指導を行う。			
	生徒の基本的生活習慣の確立を図るとともに教育相談の充実を図る。	教職員全員の巡視計画を立案し、定期的な登校指導や校外指導を行う。			
		年間を通して、各学年、クラスで服装・頭髪等に関する指導を徹底し、定着を図る。			
		校内外における携帯電話等に関する指導を徹底する。			
		保護者との連携を密にし、無断欠席や遅刻等の減少に努める。			
		落ち着いた学校生活が送れるよう、必要に応じて校内巡視の指導を行う。			
	交通安全意識の喚起と向上を図り、交通違反や事故を防止する。	交通講話を実施し、交通安全意識の喚起と向上を図る。			
		街頭指導により、交通マナー及び安全運転を徹底する。			
		警察署・自動車教習所と連携してバイク実技講習会を実施し、交通マナー・ルール・運転技術の向上を図る。			
		積極的な情報提供に努め、交通安全意識の向上を図る。			
生徒会部	学校行事の企画・運営、参加をとおし、生徒会の一員としての自覚を深め、自主的・実践的な活動を行う。社会生活におけるルールとマナーを学ぶ。	対面式・新入生オリエンテーションを充実させ、部活動等をとおして学校生活の活性化に努める。			
		各委員会を開催し、組織作り、年間の活動予定を策定し、委員会活動を活発化させる。			
		体育祭の企画、安全な運営に努める。また、保護者・地域の幼稚園の参加をとおして、開かれた学校づくりを図る。			
		丘陵祭の企画の充実を図り、その円滑な運営に努める。また、地域の方の参加をとおして、開かれた学校づくりを図る。			
		クラスマッチを企画・運営し、競技への参加・応援をとおして、クラスの団結を一層深める。			
		予算編成の見直し及びその執行のあり方を検討する。			
	未来のリーダーを育成する。	生徒会役員のリーダーシップを育成する。			
進路指導部	自己と社会との関わりについて考察させる機会を増やし、将来社会を支える気概を育成する。	地元地域より企業現場の方を招聘して講演会を実施する。			
		業者テストを活用し、自己理解・適性理解を図る。			
		ホームルームを活用し、「進路の手引き」を利用した進路指導を行う。			
	進路情報を充実させる。	様々な機会を活用し生徒・保護者への情報提供に務める。			

評価項目			評価		
安全衛生委員会	職員の職場環境を整える。	定期的な委員会の開催、物理的・精神的環境について検討し、改善する。			
		職員に安全衛生委員会の議事録や労安メモを配付し、健康管理について注意喚起を促す。			
人権教育、同和教育委員会	人権を尊重し、差別のないよりよい社会を実現する態度を養う。	生徒には同和教育を基軸とした人権教育の年間指導計画や全体・学年別の学習目標を立て、それに基づいた人権教育を実施する。			
		教職員には同和教育を基軸とした人権教育を実施するため、各種研修会に参加し、職員全体で共有し、人権感覚を培い生徒の指導にあたるとともに、校内研修会等を実施する。			
		男女平等やLGBT等に関する教育を実施する。			
コンピュータ委員会	ICT環境を整備し、教員研修、校務の効率化、生徒への情報教育を推進する。	他分掌や教科などと連携しながら、ICT環境の整備、タブレット管理、サーバーのメンテナンスなどを行い、ICT教育が円滑に行えるよう努める。			
		生徒1人1台タブレットを、授業などの学習活動で有効活用できるよう、また、PCによる校務作業がスムーズにできるよう、必要に応じてマニュアル配布、研修会の実施を計画する。			
		HP、note（ノート）、インスタによる情報発信を行い、開かれた学校づくりに努める。			
いじめ対策・生徒支援委員会	生徒に寄り添い、教職員で情報を共有し支援体制を整え、安全･安心な学校生活を実現する。	生徒の話に耳を傾け、心の不調を抱える生徒の対応・支援に努める。必要に応じて、SC、SSW、外部機関と連携を図る。			
		適応支援シートの利用やアセスの結果を分析し、生徒の支援に活かす。			
		職員会議で定期的な情報交換会を行い、職員全体で情報を共有し、支援する。			
		心の健康観察の実施により、心身の変化を早期に発見する。			
インターン・デュアル実行委員会	実社会での経験を通し、キャリア意識を涵養する。	2年生全員および商業科1年生にインターンシップを実施し、自身の振り返りをするとともに、将来の進路実現に向けた意識付けの啓発をおこなう。			
		2年生の希望者にデュアルシステムに参加させ、その経験を1年生や外部へ発信する。			
1学年	基本的生活習慣を確立させる。	基本的な生活習慣を確立し、部活動やアルバイト、学習とのバランスのとれた学校生活が送れる力や習慣を身につけさせる。			
		服装・頭髪等の身だしなみを整える習慣を身につけさせる。			
		人の話をよく聞き、メモをきちんととり、しっかり理解する力を身につけさせる。			
	早期に進路意識を育成する。	進路講話（講演）、ガイダンス、面談などを通じ、自らの進路を積極的に考える態度を身につけさせる。			
		進路の手引きを活用し、進路意識をより高める指導を行う。			
	基礎学力の定着・教養の伸長を図る。	家庭学習の習慣を身につけさせ、各種検定取得を意識した学習習慣を確立させる。			
		スタディ・サプリを有効に活用し、学び直し、基礎学力の定着を図る。			
		TVニュースや新聞を見る習慣を身につけさせ、社会の出来事に関心を持たせる。そして、その出来事に対して自分の意見を持ち、発表することのできる力をつけさせる。			
2学年	基本的生活習慣を確立させる。	基本的な生活習慣を確立し、部活動やアルバイト、学習とのバランスのとれた学校生活が送れる力や習慣を身につけさせる。			
		服装・頭髪等の身だしなみを整える習慣と商工生としての自覚を身につけさせる。			
		人の話をよく聞き、メモをとるなどしながら、しっかり理解する力を身につけさせる。			
	進路意識の更なる育成をする。	進路講話（講演）、ガイダンス、面談などを通じ、自らの進路を積極的に考える態度を身につけさせる。			
		進路の手引きを活用し、進路意識をより高める指導を行う。			
		オープンキャンパス等に積極的に参加し、情報収集を図り、進路実現に活用させる。			
	学力・教養の更なる伸長を図る。	スタディ・サプリを活用し、基本的な学力の定着を図る。また、家庭学習の習慣を身につけさせ、各種検定取得に積極的に取り組む意識と姿勢を確立させる。			
		新聞や書籍を読む機会を作り、考える習慣を身につけさせる。また、社会の変化や出来事に関心を持ち、自分の考えや意見を発表できる力を身につけさせる。			
3学年	社会性の更なる育成をする。	服装・頭髪等の身だしなみを整える習慣を身につけさせるとともに、面接練習などを通して、適切な身だしなみについての考えを深めさせる。			
		人の話をよく聞き、しっかりと理解し、確実に実行するといった習慣を身につけさせることにより、基本的な社会性を培う。			
		基本的な生活習慣を確立し、部活動、係仕事、委員会活動、学校行事などへの積極的参加を促し、各活動を通して学び、社会構成員としての力を身につけさせる。			
	進路意識を醸成する。	校内外の説明会、講演会、オープンキャンパス等に積極的に参加して情報収集を図り、進路実現に役立たせる。			
		進路に対する意識を高め、早めに進路計画を立案させ、進路希望の実現に向けて努力させる。			
	学力・教養の更なる伸長を図る。	授業だけではなく、進路や将来を見据えた更なる発展学習に取り組ませ、生涯の学習姿勢へとつながっていくよう意識を持たせる。			
		書籍や新聞などを読み、考える習慣を身につけさせる。			

評価項目					評価		
教科指導	商業科	全般	産業経済界に貢献できる人材の育成を目指すとともに、積極的な資格取得などにより、進学にも対応できる生徒の育成を図る。	わかる授業により基礎・基本を継続的に指導し、商業に関する各分野についての知識と技術を確実に習得させ、ビジネスの様々な分野で活躍できるよう、ビジネスマナーの習得、マーケティングや法律についての知識や考え方を身に付けさせる。（全商ビジネス文書検定、電卓検定、簿記実務検定、情報処理検定、商業経済検定の各3級の取得）			
		情報分野	情報処理分野の知識と技術を習得させ、企業の情報処理担当者として適切に対応するための能力と態度を育てる。	学期・学年ごとに資格取得など具体的な目標を設定させ、自主的な学習活動を通して生徒の目標が実現するよう指導していく。（全商情報処理検定1・2級の取得）			
				基礎基本を踏まえながら実習を多く取り入れ、主体的・実践的な態度を養う。（ITパスポート試験の合格）			
		会計分野	簿記・会計分野の知識と技術を習得させ、会計実務担当者として適切に対応するための能力と態度を育てる。	学期・学年ごとに資格取得など具体的な目標を設定させ、自主的な学習活動を通して生徒の目標が実現するよう指導していく。（全商簿記検定1・2級、日商簿記検定3級の取得）			
		流通分野	流通分野の知識と技術を習得させ、企業活動の各種業務に適切に対応するための能力と態度を育てる。	ビジネスの様々な分野で活躍できるよう、実社会に即した知識・技術を身に付けさせ、実践的・創造的な態度を養う。（日商販売士検定の合格）			
	地域創造工学科	全般	工業技術の基礎・基本を重点的に学習し、実験や実習を通して土木・機械・電気・電子・情報の分野に対応できる力を身に付けさせる。	工業科目について、基礎的な知識や技能を身につける。			
				各種資格試験の案内を行い、資格取得に力を入れる。			
				実習で専門分野についての理解を深め、安全に作業することや適切な操作方法を覚える。また、ICTの活用について理解する。			
				工場見学で実際の現場を見て視野を広げる。			
				外部人材（民間講師等）の講話をとおして社会人として大切なことやマナーなどを学ぶ。			
		機械システム	作品の製作を通してものづくりの楽しさや意義を理解させる。	旋盤、溶接、電気、電子回路、情報の各分野について基本的な知識・技術を身につける。			
				技能士など各種検定の取得を勧め、ジュニアマイスター顕彰の取得を目指す。			
				作品や課題の取り組みをとおして、ものづくりの基礎的な技術と知識を学ぶ。			
		地域デザイン	地域の建設業に貢献できる人材を育成する。	建設・土木に関する基本的な知識・技術を身につける。			
				ジュニアマイスター・ゴールドの取得を促す。			
				課題研究等での研究成果を積極的に外部に発信していく。			
	普通科目	国語	基本的な読み書きの力、表現力を付ける。	適切に読書の時間を確保し、生涯本に親しむきっかけを作る。			
				小テストなどを利用し、基本的事項の定着を図る。			
				課題を定期的に提出させ、家庭学習や学習内容の定着を図る。			
		地歴公民	基本的な知識を習得させ、現代社会の動向と自らの生き方と関連づけて考える力を育む。人権を尊重する意識を養うよう展開を工夫する。	問題演習等を活用し、基本的な知識の定着を図る。			
				社会的事象への関心を高めるため、新聞資料などの活用を図る。			
				自ら考え、表現する力を養うため、調べ学習・レポート作成等を授業に取り入れる。			
				遠隔授業の担当者と連絡を密に取り、適切に評価まで行う。			
		数学	適切な教材選択と、自主学習の機会を充実させ、計算力の向上と基礎学力の定着をはかる。	定期考査ごとにテスト学習用ﾌﾟﾘﾝﾄを作成し、提出させることで、自主学習の機会を与える。			
				長期休業中に課題を出し、学習の定着をはかる。			
				生徒の実態に即した教材を選択し、指導の際には具体例の提示と丁寧な説明をおこなう。			
		理科	中学校の学習内容の復習もしながら、より専門的原理を科学的視点から探究する能力や態度を養う。	科学と人間生活…生活の中にある現象を科学的な視点で理解する。			
				物理基礎…様々な現象も単純な原理の組合せであることを理解する。			
				化学基礎…身近な物質や現象法則を定量的に理解する。			
				生物基礎…ヒトと身のまわりの生物との相互関係を理解する。			
		英語	基本的な能力を養う。	学習プリントを活用し、基本的事項の定着を図る。			
				資格取得を目指す。			
			積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	言語や文化に対する理解を深める。			
				ALTとの授業に積極的に参加する。			
				自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように英語で表現する。			
		保健体育	積極的に体を動かし、様々な動きを理解することでケガの予防や健康の保持・増進を図る。	体ほぐしを中心に、運動の楽しさを教える。			
				スポーツテストや長距離走を実施することで、不足している体力を把握しその向上を図る。実技種目は2・3年生で同一種目を継続し、生涯ｽﾎﾟｰﾂにつなげる。			
			スポーツを通して、ルールの大切さを教えると共に、社会生活において規範意識を身に付けさせる。	ルールを理解し、ルールを守った活動をさせる。お互いが安全面に留意した活動をする。			
				チームプレーを通してｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の育成や、リーダーシップのとれる人物を育成する。集団行動・ﾁｰﾑｽﾎﾟｰﾂを通じて、協調性・協働性を養う。			
				時間厳守をはじめ、体育授業時の約束事を守らせる。			
			健康に関する知識・理解を深める。	将来の自分を見据え、今自分に足りないものは何かを考え解決する力を養う。			
				授業内の説明やアドバイスによって、自分の現状や認識が正しいのかを理解させ、現状に見合った修正を図る。			
		家庭	各分野における知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決すると共に、よりよく生きるために必要な力を身に付けさせる。（1・2年連続履修）	衣生活分野…衣服材料の種類と選択、管理に必要な知識と技術を身につける。			
				食生活分野…ライフステージにおける食生活の課題について学び、必要な知識と技術を身につける。			
				子どもの保育、高齢者分野…体験実習等を通し、人とのかかわりを大切にする気持ちを育む。			
				家族・家庭、消費、住生活分野等…自らのライフキャリアを考えさせ、自立に必要な力を養う。			